

FS秋田県鹿角市DMOプロジェクト (A班)

プログラム概要 : 8月中旬に秋田県鹿角市を訪問、宿泊施設での集客の立案、道の駅での集客プランを企画。成果報告会で発表。

実習先 : 道の駅かづの ホテル鹿角 鹿角パークホテル

参加人数 : 6名

学部学科 : 経済・経営・グローバルコミュニケーション・日本語コミュニケーション・政治・データサイエンスの各学科

実習期間 : 令和7年8月12日～8月28日

本学担当教員 : 佐藤正隆 (会計ガバナンス学科)

○はじめに

私たちはFS秋田県鹿角市DMO体験プロジェクトを通して、地域と向き合い、人の流れや価値が生まれる瞬間を見つけて、地域活性化に貢献することができました。また鹿角市の自然や文化の魅力について学び、その魅力を最大限に活かせるような企画を提案しました。

○実習内容

8月12日から活動を開始し、2日間かけて市内散策をしました。12日は歴史民俗資料館と鹿角市文化の杜交流館コモッセを巡り、13日は八幡平山頂、史跡尾去沢鉱山、道の駅かづの、花輪スキー場、大湯環状列石、道の駅おおゆを巡りました。その中でも特に印象に残っているのは史跡尾去沢鉱山です。1300年間をかけて人の手で掘られた巨大な洞窟に圧倒されました。

14日から16日は「道の駅かづの あんとらあ」で活動しました。鹿角市を盛り上げられる企画を提案するために、まず1日目に道の駅の利用者にアンケート調査を行いました。その結果をもとに、鹿角市の観光地を巡るツアーを提案しようと案を練っていましたが、予算などの関係で頓挫してしまいました。そのため2日目からはツアー一案に変わる案として大湯環状列石の土版をモチーフとしたキャラクターである「どばんくん」を売り出したいという思いから、「どばんくんガチャガチャ」を提案することにしました。デザインを考えたりどうしたら回してもらえるかを考え試行錯誤しました。

19日は日本三大ばやしである「花輪ばやし」に参加しました。20日も参加する予定でしたが、大雨で中止になってしまったので1日目のみの参加になりました。19日の夕方から朝の6時までととても長い時間太鼓をたたいたり屋台を押ししたりしました。地元の方々がこのお祭りをとても大事にされているのが伝わってきてとても楽しかったです。

22日からは「ホテル鹿角」と「感動鹿角パークホテル」に分かれて活動しました。



○提案したこと、発信したこと、など

「道の駅かつの あんとらあ」では、最初に鹿角市の魅力を伝えるDMOらしい観光施策を考えていたが、予算や期間の関係で頓挫してしまいました。そこで、皆で改めて話し合い、「どばんくんガチャ」を考案しました。景品と商品券を入れることで、楽しく回してもらいながら道の駅での利用額を増やし、近隣のお店や道の駅への利用促進にもつながるよう工夫しました。

「ホテル鹿角」では、道の駅おおゆでおこなわれる夏祭りのイベントを企画しました。「ストーンアート」と「シャボン玉アート」を提案し、文化や自然に触れながら、子供を中心にコミュニケーションを楽しんでいただけることを目指しました。

「感動鹿角パークホテル」では、レディース・ファームと協力してホテルオリジナルブランドのジャムを提案しました。ただ、提案するのではなく自分たちでレディース・ファームに訪れて、生産者の生の声を聞き一つの商品に込められた思いを感じる貴重な経験をさせていただきました。

○経験したこと、学んだこと、など

17日間の鹿角FSを通じて、地域のコミュニティと深く関わり、伝統文化や歴史を肌で感じることができました。特に印象的だったのは花輪ばやしです。3日間の練習を重ね、本番では町内の方々と共に太鼓をたたく機会をいただきました。地域の一体感を味わうとともに、誇りをもって祭りを支える姿から、伝統を守り次世代へつなぐ大切さを学びました。参加を通じて、地域文化が人々の心を結び、強い絆を生み出す力を実感しました。

○今後の展開、今後の学び、など

今年の冬と来年の夏に道の駅企画を実施予定のため、今後も地域の方々や企画運営の方々とつながりを大切にしながら連携を取っていこうと思います。

○まとめ

鹿角市職員の方々をはじめ、宿泊施設の方々、地域の皆様など、多くの方々に温かいご協力をいただき、16日間を通して貴重な学びを得ることができました。活動を通じて、鹿角市ならではの魅力を知り、人とのつながりの大切さを実感しました。期間は長いようで短く、ただ知識を得るだけでなく、自ら考えて行動する大切さを学べたことは大きな財産です。今回の経験を今後の生活や学びに活かしていきたいです。

○担当教員コメント

A班は余裕をもって資料を作成しており、大変優秀なチームでした。何度も報告練習した成果が本番でも発揮されていたと思います。今回の経験を今後の活動に活かしてってください。最高のメンバーだったと思います。ありがとうございました。

○実習先コメント(A班)

(1) 鹿角市

鹿角市のフィールド・スタディーズに熱心に取り組んでいただき、本当にありがとうございました。皆さんが地域の人々と向き合い、考え、行動してくれたことが市にとって大きな財産となりました。今回の経験をもとに、鹿角市を単なる学びの場として終わらせるのではなく、これからの人生においても関わり続けていただけたら嬉しく思います。皆さんが鹿角市の関係人口として、また、このまちとつながる仲間として、成長していく姿を楽しみにしています。

(2) かつの観光物産公社(かつのDMO)

ツアー考案からガチャ設置へと内容が変更され、タイトなスケジュールの中での取組でしたが、細部のデザインやコスト、利益に至るまでしっかりと考えられており、感銘を受けました(大人でも難しいことです)。役割を分担しながら協力し合って形にしていった成果だと思います。初日に検討していたツアー案の検討過程や作業も決して無駄になることはなく、今後の学びや経験に必ず生きてくるはずです。鹿角での経験が皆さんの礎となることを願っています。17日間、本当にお疲れさまでした。

(3) ホテル鹿角

短い期間でしたが、大湯温泉観光協会主催「夏祭りイベント」のご提案ありがとうございました。実行委員会の高齢化が進む中、企画立案に苦労しておりました。若い皆様の視点から積極的にアイデアを頂き感謝申し上げます。来年夏の成果が楽しみです。

(4) 感動鹿角パークホテル

結果的には「ホテルのオリジナル商品開発(フルーツジャム)」となりましたが、19歳男子の観点から出るアイデアは面白く、ホテルの宿泊プラン「ファスティング(断食)ダイエットプラン」「メンズ筋トレ・美容プラン」等、普段の私の固い頭では発想出来ないものも話題になり刺激になりました。商品開発のため訪問したレディースファーム(果物加工)への視察では、しっかり事前に質問項目を検討し、柔らかな物腰しで対応する姿や、試作品の試食・代表のお話しに純粋に感動する姿を見て、自然に鹿角に打ち解ける姿には関心いたしました。また、AIを駆使して資料を作成する姿に、驚きと頼もしさを感じました。

(5) 花輪ばやし受入町内(舟場町)

3人とも事前に太鼓練習をしてきてくれて、当町内での練習ではあまり教えることが無いくらいに覚えてきてくれました。態度も非常にまじめで、練習中も講師の話をよく聞き、果敢に練習に取り組んでもらい、本番前に完璧に習得してくれました。この短期間の練習回数でよくここまで覚えてくれたなと感心しました。

8/19も当町内の先輩(OB)や年齢が近い子と積極的に話をしたり、屋台を押して歩いてくれたり、今回受入で参加した学生とは思えないほどでした。私たちも、以前から参加している地元の子じゃないかと勘違いするほどコミュニケーション能力も高く頼もしかったです。途中、屋台の中に入っただき、当町内の若者と一緒に太鼓を叩いてもらいましたが、とても華があり、何よりも3人が楽しそうに叩いている姿を見て、こちらが嬉しくなりました。

大雨で2日目は中止になりましたが、花輪ばやし、舟場町のお祭りを経験していただき、少しでもこのプロジェクトに貢献できたかなと思っています。是非また機会があれば来てほしいと思う生徒たちでした。

(6) 花輪ばやし受入町内(新町)

まずは、新町町内へご参加くださりありがとうございました。太鼓を本番で経験していただいた点も大変嬉しく思います。祭りを運営する側として、2日目を中止するという残念な結果ではありましたが、今回の経験が皆様の人生において貴重な思い出として残っていただければ幸いです。

FS秋田県鹿角市DMO体験プロジェクト（B班）

プログラム概要 : 8月初に事前学習を行った後、8月中旬に秋田県鹿角市を訪問、宿泊施設での集客の立案、道の駅での集客プランを企画。成果報告会で発表。
実習先 : 感動鹿角パークホテル、ホテル鹿角、道の駅鹿角あんたらあ（秋田県鹿角市）
参加人数 : 6名
学部学科 : アントレプレナーシップ・サステナビリティ・人間科学・経営・政治・経済の各学科
実習期間 : 令和7年8月12日～8月28日
本学担当教員 : 佐藤正隆（会計ガバナンス学科）

○はじめに

私たちは鹿角FSを通して、鹿角市が直面する課題を現場で学び、地域活性化の企画を立案することで、生きた地域づくりを実践的に学ぶことができました。また、日本三大ばやしの1つである「花輪ばやし」への参加を通して、花輪ばやし参加者ならではの思い、歴史や魅力を感じることができました。

○実習内容

8月12日に鹿角入りし、歴史民俗資料館とコモッセを見学しました。13日は八幡平、史跡尾去沢鉱山、祭り展示館、花輪スキー場、大湯環状列石、道の駅おおゆを訪れました。お昼は道の駅かづのあんたらあできりたんぽを食べました。

14日～16日はホテル鹿角と感動鹿角パークホテルに分かれてインターンシップを行いました。

また、女子は14～16日と18日、男子は16日～18日にそれぞれ谷地田町と横丁で花輪ばやしの練習に参加しました。

19日の夕方から20日の朝にかけて花輪ばやしに参加しました。本来であれば20日から21日の明け方にかけても花輪ばやしが行われる予定でしたが、異例の大雨で歴史上初の中止という判断になりました。屋台の運行は中止になってしまいましたが、赤鳥居の前でサンサだけ行われました。

22日、23日、25日の3日間は道の駅かづのあんたらあでインターンシップを行いました。

27日はまちなかオフィスで市民公開型成果報告会を行いました。

○提案したこと、発信したこと、など

「道の駅かづの あんたらあ」では、自分たちが体験した花輪ばやしをより盛り上げるために「花輪ばやしをテーマにした地域活性化案」を提案しました。本提案では、花輪ばやし公式キャラクター・グッズ、思い出シェアキャンペーン、浴衣の着付け写真撮影会を考案しました。

「ホテル鹿角」では、冬に行われる「大湯温泉 雪まつり」でのイベントを考えました。子供から大人まで楽しめることを目的として、「雪玉相撲」・「スノーストラックアウト」というイベントを提案しました。それに加えて、花火に莫大な費用がかかり雪まつりの運営が年々厳しくなっているという現状を知り、雪まつりを長期的に実施できるように「クラウドファンディング」を提案しました。

「感動鹿角パークホテル」では、ふるさと納税の返礼品を考案しました。農産物等では天候に左右される点、生産者不足という点で安定供給に不安要素があるとして、宿泊クーポン券とそのプラン内容を考案しました。

○経験したこと、学んだこと

17日間のFS期間の中で鹿角の歴史や文化についての魅力をたくさん発見することができました。その中で、鹿角の魅力をどのように発信したらいいのかについて試行錯誤する中で多くの学びがありました。

特に印象に残ったのは花輪ばやしへの参加です。地域の人々が一体となって伝統を受け継ぐ姿に触れ、地域の文化をどのような形で次世代へ残していくべきかを深く考える契機となりました。

道の駅やホテルでの活動では、実際に企画を立案し、チームとして一つの案にまとめる難しさ、実現可能性の検証、実行に向けたプロセスのハードルを具体的に実感しました。

第三者の視点から地域の魅力を再発見し、継承につなげることの重要性を改めて認識しました。これは鹿角市に限らず、人口減少が進む日本全体の課題でもあります。今回得た学びを、今後の鹿角での活動につなげていきます。

○今後の展開

私たちは、冬に開催される大湯温泉の雪まつり企画や年末のふるさと納税の返礼品企画を提案したため、今後も鹿角の方々との関りを継続していきたいです。また、今回の研修を通して発見した鹿角市の魅力を多くの方に知ってもらえるようにSNSなどを活用して発信していきます。

○まとめ

鹿角市職員の方々、ホテル鹿角の方々、感動鹿角パークホテルの方々、あんとらあの方々、地域の方々の皆様におかれましては、右も左も分からない私たちをあたたくお迎えいただき、心より感謝申し上げます。本活動を通じて鹿角市の自然豊かな美しい魅力や、歴史、そして伝統について数多くのことを学ばせていただきました。また、これらの魅力が地元の方々から根強く愛され、親しまれていることを知り、長期的に未来へと残していくことの大切さについて考える機会となりました。さらに今回の活動で、ただ考えるだけでなく、実際に行動することの重要性を実感しました。今後は、このプログラムで学んだことをこれからの生活へと繋げ、持続的な視点を取り入れたうえで活かしていきたいと思っております。

○担当教員コメント

「やるべき時にやる」方々の集まりだったと思います。B班は、真面目に着実に進めていく方と大胆に本質を分析できる方がうまく噛み合ったと思っております。今後も、ご自身の企画がどのようになったのかを確認するために、鹿角市を訪問してみてください。最高のメンバーだったと思っております。ありがとうございました。



○実習先コメント(B班)

(1) 鹿角市

鹿角市のフィールド・スタディーズに熱心に取り組んでいただき、本当にありがとうございました。皆さんが地域の人々と向き合い、考え、行動してくれたことが市にとって大きな財産となりました。今回の経験をもとに、鹿角市を単なる学びの場として終わらせるのではなく、これからの人生においても関わり続けていただけたら嬉しく思います。皆さんが鹿角市の関係人口として、また、このまちとつながる仲間として、成長していく姿を楽しみにしています。

(2) かつの観光物産公社(かつのDMO)

しっかりリサーチをして根拠を示そうと取り組んでいた姿が印象に残りました。複数のアイデアも汎用性がありよく考えられていたと思います。提案に留まらず、運営する側の目線でも考えられていたのが素晴らしかったですし、実際に祭りを体験したからこそその発想には説得力がありました。皆さんの案を通して、花輪ばやしには地域をさらに元気にする可能性が大きいと改めて感じました。実現に向けて祭り関係者と協力していきたいと思います。17日間、本当にお疲れさまでした。

(3) ホテル鹿角

大湯温泉雪まつりにつきまして楽しいイベントの企画立案ありがとうございます。参加者に楽しんで頂ける内容でしたので、採用するよう実行委員会に働きかけます。5ヶ月後が楽しみです。また、クラウドファンディングのご提案についても感謝申し上げます。今後の検討とさせていただきます。

(4) 感動鹿角パークホテル

ホテルで造成したかった「ふるさと納税の返礼品／ホテル宿泊クーポン券」の商品造成をしましたが、「ふるさと納税」という今話題の題材を、日本・鹿角市それぞれの現状・課題を分かりやすくまとめ、3人でしっかり作業分担し効率良い企画まとめをしており、チームワークの良さを感じました。私の冒頭にお話した「一過性ではない継続性」の意味をしっかりとらえた商品・資料づくり・発表と、斬新なアイデアではありませんでしたが、何かの企画をする際の手順や考え方等を一通り経験いただき、ホテル・学生双方にとって意義ある機会になったのではと考えております。何より素直な姿勢に好感が持てました。

(5) 花輪ばやし受入町内(谷地田町)

8月14日から18日までの合計4回太鼓練習に参加して頂き、19日の本番を迎えてもらいました。練習意欲も高く、4回しかない練習で『本ばやし』を覚えてもらい19日は谷地田町の戦力として太鼓を叩いてもらいました。町内の人とも上手くコミュニケーションをとって、終始楽しそうな印象でした。

本当であれば、2日の赤鳥居まで参加してもらい『花輪ばやし』を大いに満喫してほしかったのですが、災害級の天気によって中止となってしまい申し訳ございませんでした。もしこの先の人生でまた鹿角(花輪ばやし)に来ることがあれば、その時は外から観てもいいですし、参加も大歓迎です。谷地田町に参加してくれた学生の皆さん、ありがとうございました。

(6) 花輪ばやし受入町内(横丁)

とても前向きに活動してくれました。自由参加としていた屋台出しから参加していただいて、練習会でも一生懸命に覚えようと頑張って練習に励む姿が見られました。また、年代が近い人だけでなく、祭りに関係する色々な人たちと積極的にコミュニケーションをとり、大学での様子や自分の将来の夢などについて語ってくれたことでこちらも勉強になりました。

2日目が中止になったことを連絡した際には、残念そうにする様子も見られ、少しでも楽しみにしてくれたことを嬉しく思います。人数が少ない町内で、あまり楽しませてあげられなかったかもしれませんが、少しでも思い出に残ってもらえれば幸いです。